

## 平成 25 年度「新宿区高齢者の保健と福祉に関する調査」振り返り

### <第 1 回新宿区高齢者保健福祉推進協議会作業部会委員意見の概要>

開催日時：平成 27 年 8 月 28 日（金）14 時～16 時

「新宿区高齢者の保健と福祉に関する調査」を中心に、意見をいただきました。

#### 1 施策について

- ① 独居老人や老老介護になっている人たちを、福祉サービスに結びつけるための仕組み作りが必要だ。
- ② かかりつけ医推進の、理解が進んでいない。

#### 2 計画について

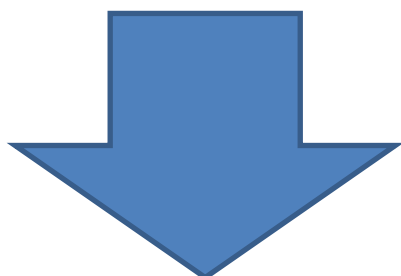
- ① 高齢者保健福祉計画は、10 年後の姿を先読みした計画にすべきではないか。
- ② 10 年後に保険料負担や財政負担が持つのか、見通しをたてた上で第 7 期の計画を作って欲しい。
- ③ 計画では、地域の特性を加味して欲しい。

#### 3 調査について（項目・調査票）

- ① 経年調査内容について、精査が必要である。
- ② 質問票は、回答をしやすいように工夫して欲しい。
- ③ 調査の回答率について、回答が具体的な施策に結びついていくという期待があるので、そこを強調すればよい。
- ④ 「要支援 1・2、介護 1」の枠と「介護 2 から介護 5」の枠と、2 つ分けて行った方がいい。

## <作業部会の意見を踏まえた事務局の振り返り>

- ① 回答率を上げる工夫として調査票の発送について、木曜日に郵便局に持ち込み、週末を2回含めて回答できるように配慮したつもりだったが、祝日等の関係で結果的に到着が月曜日になってしまった。その点が、全体的に回答率が下がってしまった要因と考えられる。
- ② 返信用封筒が小さい「長3」サイズで、回答を折って封入することになっていたが、これについて苦情が30件ほど寄せられた。返信用封筒について、配慮すべきだった。
- ③ 経年の設問の他に、看取りや緩和ケア等の新たな視点の設問も加えたため、設問数が多かった。
- ④ 高齢者の生活全般に関する計画のため、内容が多岐にわたり、調査したい項目が多くあった。しかし、同時に回答率の低下を防ぐためには設問数を抑える必要もあり、聞ききれない設問があった。



### <次回、平成28年度の調査に向けて>

- ① 回答者が週末に回答できるように、郵送日を工夫する。
- ② 返信用封筒は、A4がそのまま入る「角2」サイズを用意する。
- ③ 調査対象者を増やして、設問を分けて、一人あたりの設問数を減らすことにより、回答者の負担を軽減する。
- ④ 10年後を見据えて、第6期の重点施策を掘り下げる設問を加える。